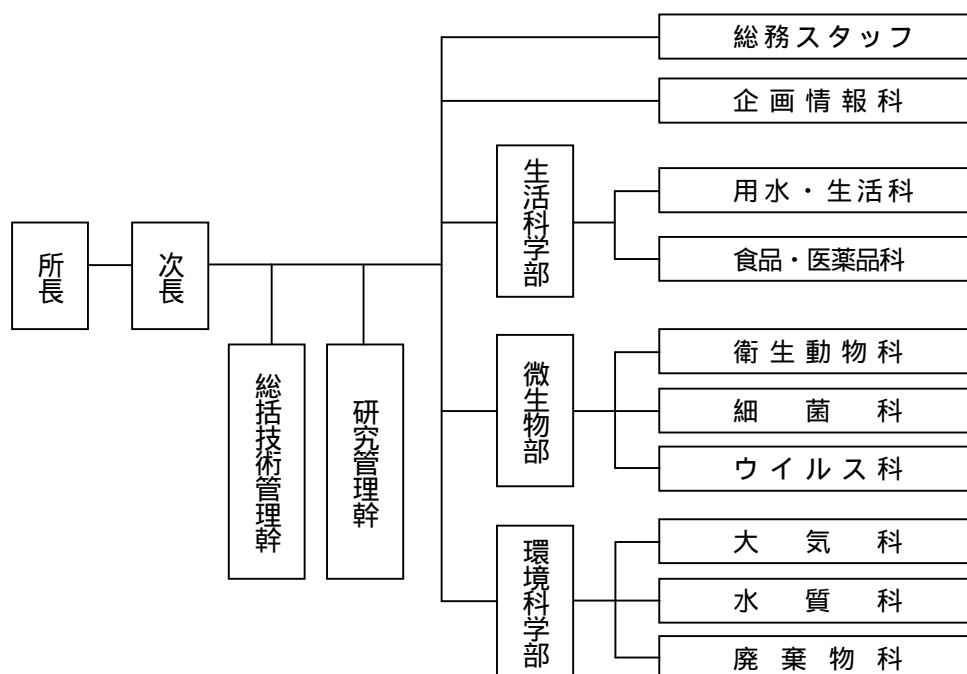


組織と沿革



組織



沿革

- 昭和 24 年 県立医学研究所として、甲府市中央に創設。
- 昭和 35 年 県立衛生研究所に改称。
- 昭和 46 年 甲府市富士見に新築移転。
- 昭和 48 年 衛生検査センターを甲府市中央に創設し、行政検査の一部を分掌。
- 昭和 50 年 県立衛生研究所を県立衛生公害研究所に改称。
- 昭和 59 年 衛生検査センターを甲府市太田町に新築移転し検査機能を強化。
- 昭和 60 年 県立衛生公害研究所を衛生公害研究所に改称。
- 平成 9 年 衛生検査センターを衛生監視指導センターに改称。
- 平成 22 年 衛生公害研究所と衛生監視指導センターを統合し、衛生環境研究所に改称。
旧衛生公害研究所を本所、旧衛生監視指導センターを分所として業務開始。
- 平成 24 年 分所から機器等を本所に移転し、組織及び業務を一本化。

業務報告

企画情報科・総務スタッフ

(1) 講師派遣及び研修の実施状況

月 日	主催者(研修会名)	講師名	内 容
5月19日	山梨県高校理科部会	吉澤 一家	陸水学から見た山梨の水
5月23日	衛生業務課 (第1回監視指導技術研修会)	西潟 剛	食中毒検体材料の採取について
6月19日	衛生環境研究所 (第1回感染症等研修会)	西潟 剛	集団下痢症事例等における検体採取
		植松 香星	感染症サーベイランスの基礎
		高橋 史恵	衛生動物について (冊子「日常生活と周辺の虫たち」の活用)
6月27日	大気水質保全課	堀内 雅人 長谷川 裕弥 奥寺 優行	水生生物研修
9月10日	森林環境部	佐々木 裕也 大橋 泰浩	検体採取方法、廃棄物放射能測定
9月18日	衛生業務課	小泉 美樹	福島県派遣を終えて
11月14日	峡南地域県民センター (西八代合同庁舎職員研修会)	堀内 雅人	放射能分析について
		小泉 美樹	福島県における放射能調査 (H25年度災害派遣報告)
11月21日	甲府南高校	吉澤 一家	陸水学入門
12月12日	衛生環境研究所 (第2回感染症等研修会)	西潟 剛	2014/2015 インフルエンザウイルス発生状況と 鼻かみ液を検体としたインフルエンザウイルスの 検出状況について
		植松 香星	2014年に県内で分離された腸管出血性大腸菌につ いて
1月14日	大気水質保全課	小泉 美樹	Csはどこから来たか

(2) 委員会、協議会ならびに業務関連学会の委員など

委嘱団体等の名称	役員等の名称	職員氏名	任期その他
日本水環境学会 関東支部	幹事	小林 浩	平成26年度
日本薬学会	水質専門部会委員	小林 浩	平成26年度
(一社)山梨県臨床衛 生検査技師会	公衆衛生班長	大木 翔平	平成26年度
地衛研全国協議会 関東甲信静支部	細菌研究部会委員	植松 香星	平成26年度
日本陸水学会 甲信越支部会	副会長	吉澤 一家	平成26年度
甲府市環境センター	環境委員	吉澤 一家	平成26年度
(一社)山梨県浄化槽協会	検査業務運営委員	吉澤 一家	平成26年度

(3) 来所者

月 日	目 的	来 所 者
7月22日	BOD検査方法および研究所見学	山梨県浄化槽協会職員（4名）
10月22日	BOD検査方法および研究所見学	山梨県食品衛生協会職員（2名）
10月24日	職場体験学習	甲斐市立敷島中学校生徒（4名）
12月25日	オープン県庁	薬剤師職希望者（2名）
1月14日	医師研修	県立中央病院研修医（1名）

(4) 刊行物

年 月	名 称	概 要
26年7月	やまなし衛環研だより 第84号	当所ホームページを参照
26年8月	山梨県衛生環境研究所 年報 第57号	研究報告、業務報告、資料、学会発表等
27年3月	やまなし衛環研だより 第85号	当所ホームページを参照

ホームページ <http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/index.html>

(5) 所内の技術研修

月 日	発 表 者	内 容
4月24日	植松 香星	平成26年度地方衛生研究所サーベイランス業務従事者研修報告
4月24日	堀内 雅人	平成25年度下期災害派遣を終えて
5月28日	大沼 正行	電気泳動の原理とその活用法
6月25日	吉澤 一家	セレンディピティを磨こう
8月27日	吉澤 一家	パワーポイントをパワーアップしよう
10月29日	吉澤 一家	データの解析について
11月26日	堀内 雅人	ゲルマニウム半導体検出器核種分析研修報告
12月24日	吉澤 一家	検定でプレゼンの信頼を高めよう
2月25日	奥寺 優行	水中VOCs分析研修について

(6) 成果発表会

開催日 平成 27 年 3 月 6 日
 場 所 やまなしプラザ
 発表内容 口頭発表およびポスター発表

	発表者	内容
口頭発表	小泉 美樹	ジャガイモ中ステロイドアルカロイドの測定法に関する検討
	三井 智昭	ラピッド蛍光誘導体化試薬による食品中の腐敗アミン類定量の試み
	柳本 恵太	2ステップmultiplex PCRを用いた食中毒原因菌の検出法
	西潟 剛	ロタウイルスが原因となって発生した感染症事例の遺伝子解析
	堀内 雅人	県内水環境における外来底生生物調査（平成25～26年度）
	長谷川 裕弥	水生植物による水質浄化について
ポスター発表	小泉 美樹	県内産食品中の放射性物質実態調査（平成23～25年度）
	山本 敬男	農産物等における残留農薬試験法の妥当性評価とその課題
	望月 映希	山梨県内の環境水中における有機フッ素化合物の実態調査
	大木 翔平	畜水産物中の動物用医薬品 50 項目一斉分析検討と妥当性評価
	小田切 幸次	複数のXバンドMPレーダーを用いた富士山周辺域での降雨量推定
	竹内 彩	ブドウ果汁中の保存料分析における共存妨害成分の検出と同定について
	高橋 史恵	甲府地区のスギ・ヒノキ花粉の飛散状況に関する調査
	大橋 泰浩	山梨県における地衣類の分布（平成26年度）
	辻 敬太郎	山梨県内の微小粒子状物質（PM2.5）分布状況について（平成25年度）
	吉澤 一家	山梨県内河川の付着珪藻（第1報）

(7) 研究課題評価

本県では試験研究機能の向上と説明責任の確保を目的に、外部の専門家による課題評価委員会を設置し、調査研究課題に対する評価を行っている。平成 26 年度は評価委員会を 2 回開催し、「事前評価」と「事後評価」を行った。

1 評価委員会の開催**【第1回課題評価委員会】**

開催日時 平成 26 年 6 月 26 日（木）
 午後 1 時 30 分～午後 5 時
 場 所 衛生環境研究所 4 階研修室
 出席者 課題評価委員 4 名
 （1 名は書類での評価）
 評価内容 平成 25 年度に終了した研究課題
 （事後評価 6 題）

【第2回課題評価委員会】

開催日時 平成 27 年 2 月 23 日（月）
 午後 1 時 30 分～午後 4 時
 場 所 衛生環境研究所 4 階研修室
 出席者 課題評価委員 5 名
 評価内容 平成 27 年度から開始する研究課題
 （事前評価 3 題）

2 課題評価委員

委員長 平山 公明：山梨大学大学院
 医学工学総合研究部 教授
 副委員長 風間ふたば：山梨大学大学院
 医学工学総合研究部 教授

佐野 芳仁：株式会社テンヨ武田
生産本部・営業二部 次長
高山 一郎：山梨大学
保健管理センター 教授
山縣然太郎：山梨大学大学院
医学工学総合研究部 教授

事後評価内容 1 調査研究の目的・目標の達成度
2 成果の学術的意義
3 成果の今後への発展性
4 行政施策への貢献度、活用性
5 県民、社会的ニーズへの波及効果

3 評価方法

課題評価は「各評価内容について5段階(5:優れている、4:良好、3:概ね良好、2:部分的見直しを要す、1:全面的見直しを要す)で評価後、総合評価しコメントを付す」ことになっている。

事前評価内容 1 調査研究目的の妥当性
2 厚生・環境科学における学術的意義
3 目的達成のための手法、計画、体制
4 衛生行政・環境行政への寄与
5 県民、社会的ニーズへの対応

4 評価結果

【第1回課題評価委員会(事後評価)】

対象となった6課題は、1題が「5:優れている」、5題が「4:良好」であった(表1)。

【第2回課題評価委員会(事前評価)】

対象となった3題は、いずれも「4:良好」であった(表2)。

(概要は当所ホームページをご覧ください。)

表1 第1回課題評価委員会評価結果(事後評価)

課 題	山梨県内地下水の水質性状と時系列変化
総合評価点	4
総合評価コメント	地下水水質の把握とした目的は達成しているといえる。3地域の地下水質の相違を地質や生産活動と結びつけて指摘したことで、それぞれの水質の特長を明確にしたと言える。県民へのメッセージとしてのまとめ方も工夫することを期待します。
課 題	食品中の放射性物質影響調査
総合評価点	5
総合評価コメント	放射性物質の影響を定量的に示しており、調査目的は十分に達成しているといえる。食品の安全性は県民の関心事であり、意義深い調査結果を示している。
課 題	県内のスギ、ヒノキ花粉の飛散状況に関する調査
総合評価点	4
総合評価コメント	花粉の飛散量と飛散開始日の精度を上げる試みをおこなっており、成果を得ていると言える。メカニズムに基づいての予測が困難な課題であることは理解するが、予測と実測の違いが生ずる原因に迫る検討も期待します。
課 題	ロタウイルスが原因となって発生した感染症事例の遺伝子解析
総合評価点	4
総合評価コメント	山梨県で発生したロタウイルスの分類を行なうとともに、ワクチンの有効性を指摘している。調査目的は達成している。県民は何に注意すればより安全を確保できるのか、など、具体的な行動選択につながるまとめがあるとよい。県外機関との連携も進めてほしい課題である。
課 題	本県環境中のNaegleria属アメーバの研究
総合評価点	4
総合評価コメント	この危険なアメーバは県内の環境では生育が困難である、ということが指摘できたので生息状況に関する成果は得られたと言える。滅多に起こらないが起これば重大な結果を招く可能性のある対象を研究することの意義を、県民の目線から示すことができると良い。

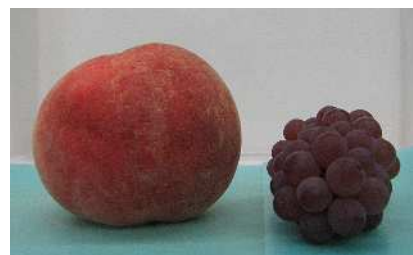
課 題	県内河川水中における重金属の形態分析
総合評価点	4
総合評価 コメント	形態別に金属濃度を測定し、総金属として測定した値は生物が利用可能な金属量には相当しないことを指摘して、金属の形態分析を行なった成果は得られたと言える。県民の視点からも結果の意義が汲み取れるまとめ方も工夫してほしい。

表 2 第 2 回課題評価委員会評価結果（事前評価）

課 題	果実類残留農薬における「妥当性評価不適」を起こす要因の検討
総合評価点	4
総合評価 コメント	残留農薬試験の測定法の改善は研究所の機能の向上を図る上で重要な調査研究課題である。測定法の改善に取り組むことは、研究所での分析技術の向上につながり、広い意味で、県民の利益にも通じる。 測定法改善の必要性に関しては、測定方法自体にも不備のある可能性があり、機会をみつけて、測定法の検討を担う機関への指摘も願う。
所の対応	より多くの農薬の分析が可能となる検査法をできるだけ早く確立するように計画を立てて進めていきます。また、検査法については、他機関とも必要に応じて情報共有していきたいと考えます。本調査研究により県内産果実の安全性がさらに確保され、県民に情報提供ができるよう取り組んでいきます。
課 題	山梨県内に流通する貝類におけるウイルス汚染実態調査
総合評価点	4
総合評価 コメント	流通段階でのウイルスの汚染調査はこれまで行われておらず、その実態を知ることは食中毒の原因を探る上での重要な課題である。 サンプリングの方法や調査結果の県民への伝え方など、調査の実施にあたって難しい点もあると思われるが、工夫した取り組みを期待する。
所の対応	調査計画を具体的に検討し、食中毒、感染症対策に活用できる資料となるよう調査研究を進めます。県民への情報提供についても、安全、安心につながる情報として提供できるよう取り組んでいきます。
課 題	県内土壌中の放射性物質濃度の実態調査
総合評価点	4
総合評価 コメント	放射性物質による汚染実態を調査し記録として残す重要性を認める。 まんべんなく面積平均的に調査するというのも一つの方法であるが、観点や着眼点をより明確にして調査を進めるという考え方もある。それは、測定場所をどのような考え方で選ぶか、ということにも通じる。どういう内容を調べたいか、それが県民の興味にどうつながるか、についても検討しながら調査研究を進めることを期待する。
所の対応	目的を明確にし、測定場所の検討を行いながら調査研究を進めます。本調査研究が環境の基礎資料となり、県民の安全、安心につながる情報として活用できるように取り組んでいきます。

生活科学部

試験検査 実績



科名	区分	小区分	行政試験		依頼試験		合計	
			検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数
用水・生活科	飲用水・用水等の試験	水道水試験					0	0
		水道水試験(項目:農薬)	50	1,522			50	1,522
		一般飲料水試験					0	0
		用水試験					0	0
		放射能	86	258			86	258
		その他					0	0
	家庭用品試験	家庭用品試験	61	61			61	61
	温泉分析	温泉分析	20	280	1	43	21	323
	計	217	2,121	1	43	218	2,164	
食品・医薬品科	食品等試験	残留農薬試験	136	17,038			136	17,038
		食品等の理化学試験	480	1,537			480	1,537
		放射能	426	1,278			426	1,278
		残留動物用医薬品	115	1,115			115	1,115
		その他					0	0
	医薬品試験	医薬品等の試験	2	9			2	9
	計	1,159	20,977	0	0	1,159	20,977	
生活科学部 計			1,376	23,098	1	43	1,377	23,141

(1) 用水・生活科

山梨県水道水質管理計画に基づく水質監視

福祉保健部衛生薬務課が策定した平成26年度水質管理計画に基づき、県内の水道水源を6月(24定点)と9月(26定点)に採水し、水質管理目標設定項目の農薬類について調査した。水質管理目標設定項目の農薬類はすべての定点で不検出だった。

水道水中の放射性物質検査

原子力発電所放射能漏れ事故に関連し、県内86箇所、86検体の放射性物質試験を実施した。対象放射性核種は、Cs-134、Cs-137の2核種である。いずれの試料からも放射性物質は検出されなかった。

水道水外部精度管理調査

厚生労働省が実施した外部精度管理調査に参加した。平成26年度の対象物質はマンガン及びその化合物と1,4-ジオキサンであり、測定結果は良好であった。

温泉の定時・定点調査と依頼試験

温泉資源の保護および有効利用のための基礎資料を蓄積するために、既存温泉の定時・定点調査を昭和60年度から行ってきた。平成26年度も森林環境部大気水質保全課と共同で、中北および峡東林務環境事務所管内の20定点について、検水採取して主要成分を分析した。

また、依頼試験が1件あり、中分析を実施した。

家庭用品

福祉保健部衛生薬務課が試買を行った衣類61件についてホルムアルデヒドの検査を行った。すべての検体において基準値を上回るホルムアルデヒドは検出されなかった。

室内空気中の揮発性有機化合物濃度調査

県内2か所の家屋の室内空気中のSVOCと室内埃の採取を行った。検体は国立医薬品食品衛生研究所等に送り分析された。

(2) 食品・医薬品科

収去食品検査

福祉保健部衛生薬務課が策定した平成 26 年度食品衛生監視指導計画に基づき収去された食品等の検査を行った。食品添加物等については、480 件、1537 項目の検査を行ったが、規格基準に違反していたものはなかった。また残留農薬については、国産の農産物（果実・野菜等）87 件（県内産 66 件、県外産 21 件）と輸入食品 24 件（農産物 13 件、冷凍食品 11 件）について概ね 140 項目の農薬を検査した。すべての検体が残留基準以下であった。

（資料 表 1-1、1-2、1-3）

畜水産食品中の残留有害物質モニタリング検査

平成 26 年度食品衛生監視指導計画に基づき、県内産の牛肉・豚肉・鶏肉 25 件について、牛肉 58 種類、豚肉 35 種類、鶏肉 59 種類の農薬を、また細菌検査担当と連携して動物用医薬品等について 30 件の検査を行ったが、すべての検体が残留基準以下であった。

農産物等の放射性物質検査

原子力発電所放射能漏れ事故に関連し、県内で生産もしくは流通する食品等、426 試料（収去 100 検体を含む）の放射性物質試験を実施した。対象放射性核種は、I - 131、Cs - 134、Cs - 137 の 3 核種である。一部の野生キノコにおいて Cs の基準値を超過したが、他の試料では基準値を超過したものはなかった。

残留動物用医薬品に係わる試験

平成 25 年度より食肉衛生検査所で実施していた残留動物用医薬品の試験検査が移管された。本年度は妥当性評価が終了した 11 項目について試験した。牛 30 検、豚 30 検、鶏 30 件体の筋肉、腎臓、肝臓の 3 部位について実施し、いずれも不検出だった。

医薬品等の試験

「平成 26 年度医薬品等一斉監視指導」により、収去（11 月）した医薬品 1 件（3 項目）について規格等の試験を、また「平成 26 年度医療機器一斉監視指導」により、収去（12 月）した真空採血管 1 件（6 項目）について日本工業規格試験（一部）を実施した。

いずれもすべての項目が基準に適合していた。

食品衛生外部精度管理調査

「試験検査等業務管理要領」に基づき、（一財）食品薬品安全センター秦野研究所が実施した外部精度管理調査に参加した。対象物質は残留農薬のマラチオン、クロル

ピリホス、チオベンカルブ、食品添加物の着色料、ソルビン酸、残留動物用医薬品のスルファジミジン、米のカドミウムを試験した。

地方衛生研究所地域保健総合推進事業に係る模擬試料の作成と訓練への参加

ジャガイモに含まれる自然毒の一つであるソラニン、チャコニンの食中毒事例を想定してジャガイモに含まれるこれら物質の定量を行った。試料は自家栽培のジャガイモを発芽させ、ホモジナイズし冷凍し、本県を含む地方衛生研究所関東甲信静支部 23 機関に送付した。各機関から提出された結果について統計処理を行い、結果を参加機関に報告した。

微生物部

試験検査 実績



科名	区 分	小 区 分	行政試験		
			検体数	項目数	
衛生動物科	寄生虫検査		0	0	
	衛生動物検査		58	58	
	花粉飛散量調査		129	258	
	食品衛生検査	食中毒集団下痢検査	5	5	
	計		192	321	
細菌科	細菌検査		一般細菌検査	31	93
			赤痢菌検査	8	32
			チフス菌検査	0	0
			パラチフスA菌検査	2	8
			薬剤耐性検査	31	496
			志賀毒素検査	166	830
			レジオネラ属菌検査	2	8
	食品衛生検査		食中毒集団下痢検査	574	10,332
			食品検査	2	10
	医薬品等検査	無菌試験	1	4	
	浴槽水収去検査	レジオネラ属菌検査	52	208	
	食品収去検査	細菌検査	787	2,161	
	ふきとり検査	細菌検査	2,225	4,450	
	計		3,881	18,632	
ウイルス科	流行予測調査		日本脳炎	80	80
			インフルエンザ	176	704
	感染症発生動向調査	定点	ウイルス分離検査	114	1,710
		定点以外	ウイルス分離検査	30	450
	集団発生検査		ウイルス分離検査	23	299
	食品衛生検査		食中毒集団下痢検査	743	8,173
	計		1,166	11,416	
微生物部 計			5,239	30,369	

(1) 衛生動物科

衛生動物等に関する検査

原因の同定、駆除法や生態等についての問い合わせは 58 件（昆虫類 36 件、ダニ類 10 件、その他 12 件）であった。内訳は食品の異物混入による検査依頼が 5 件（8%）、衛生動物についての同定・相談が 42 件（72%）、寄生虫検査が 0 件であった。食品中の異物混入の 4 件が昆虫類であった。電話による相談は 11 件だった。また、食中毒集団下痢検査は 5 件で、いずれも *Kudoa septempunctate* の検査を行い、すべて陰性だった。

（資料 表 2-1）

空中花粉調査

甲府市内で実施した今季（2015.1.5～2015.5.21）の総飛散数は、スギ花粉 1,206.2 個/cm²、ヒノキ花粉 838.5 個/cm²であった。これは昨年（それぞれ 1059.3 個/cm²、608.4 個/cm²）と比較してスギ花粉 1.1 倍、ヒノキ花粉は 1.3 倍と多い飛散であった。

（資料 表 2-2）

(2) 細菌科

感染症等に関する検査

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づいて医療機関から保健所に届出があった三類感染症及び四類感染症の疫学調査として、保健所から依頼された 173 検体の検査を行った。

腸管出血性大腸菌については 161 検体の検査を行い、14 検体が陽性であった（1 検体については同時に 2 血清型が分離された）。

赤痢菌について 8 検体、パラチフスについて 2 検体の検査を行い、全て陰性であった。

四類感染症の届出があったレジオネラ症患者の喀痰 2 検体について分離培養法によりレジオネラ属菌検査を行ったところ、1 検体から *L.pneumophila* が分離された。

また、医療機関から送付された菌株（5 株）から腸管出血性大腸菌 4 株が分離された。O157:H7 が 2 株で O26:H11 及び O111:HNM がそれぞれ 1 株であった。

（資料 表 2-3,2-4）

食中毒・集団下痢症等の検査

食中毒疑い及び集団下痢症 22 事例について、保健所から依頼された糞便・吐物（289 検体）、食品（174 検体）、ふきとり（111 検体）の細菌検査をおこなった。糞便からカンピロバクター属菌（4 株）、黄色ブドウ球菌（10 株）、ウェルシュ菌（7 株）、腸管出血性大腸菌（2 株）、腸管病原性大腸菌（1 株）、サルモネラ属菌（1 株）が、食品・

ふきとりから黄色ブドウ球菌（22 株）、腸管出血性大腸菌（1 株）が分離された。

（資料 表 2-5）

食品・医薬品等に関する検査

保健所から依頼された真菌に係る苦情食品（生菓子及び菓子）の検査を 2 件実施した。

生菓子の容器から *Cladosporium* 属が、菓子から *Cladosporium* 属、*Eurotium* 属及び *Penicillium* 属が分離された。

また「平成 26 年度医療機器一斉監視指導」に基づいて収去された真空採血管 1 検体について無菌試験を実施したところ、結果は「基準適合」であった。

（資料 表 2-6）

浴槽水のレジオネラ属菌検査

レジオネラ症患者発生に伴う関連調査について保健所から依頼された浴槽水及びふきとり 52 検体の検査を行った。10 検体からレジオネラ属菌が検出され、分離された 16 株全てが *L.pneumophila* であった。

（資料 表 2-7）

食品収去検査

「平成 26 年度山梨県食品衛生監視指導計画」に基づいて収去された食品 787 検体について一般生菌数、大腸菌群、*E.coli* 等 2,161 項目の細菌検査を行った。

（資料 表 2-8）

ふきとり検査

施設の衛生指導を目的としたまな板、包丁等 2,225 箇所のふきとり検体について、大腸菌群と黄色ブドウ球菌の検査を行ったところ、大腸菌群は 295 力所（13%）、黄色ブドウ球菌は 43 力所（2%）が陽性であった。

（資料 表 2-9）

食品衛生外部精度管理

「試験検査等業務管理要綱」に基づき、（一財）食品薬品安全センターが実施した外部精度管理に参加した。模擬食材を対象に 6 月に大腸菌群、7 月に一般細菌数測定、10 月に黄色ブドウ球菌の検査を実施し、いずれも良好な結果であった。

(3) ウイルス科

日本脳炎流行予測調査

平成 26 年 7 月から 9 月にかけて 8 回にわたり、県内産の生後 6 ヶ月の豚 10 頭ずつ計 80 頭から血清を得た。血清中の日本脳炎ウイルスに対する抗体価を赤血球凝集抑制(HI)反応により測定したところ、検査を開始した 7 月 17 日の検体から日本脳炎ウイルスに対する抗体の保有が確認された。8 月 14 日以降の検体は抗体保有率が 80%以上と高率となったが、HI 抗体価は 1:20 程度と低かった。(資料 表 2-10)

インフルエンザ流行予測感受性調査

2014 年 7 月から 9 月にかけて採血された山梨県民 176 名(0-4 歳群は 0 名、5-9、10-14、15-19、20-24、25-29、30-39、40-49、50-59、60 歳以上群の 8 群はすべて 22 名)から採血した血清を検査材料とした。抗原は、インフルエンザワクチン株 3 株[A/加ガフルア/7/2009(A(H1N1)pdm09 亜型)、A/ニューヨーク/39/2012(A(H3N2) 亜型)、B/マサチューセツ/2/2012(B 型(山形系統))]と B/プリズペン/60/2008(B 型(ビクトリア系))を加えた計 4 株を用い、これらの株に対する血清中の赤血球凝集抑制(HI)抗体価を測定した。詳細は本書の研究報告を参照。

(資料 表 2-11)

感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況

平成 26 年度に山梨県内の医療機関で感染症罹患者から採取された検体について、HEp-2、RD-18S、Vero、MDCK 細胞を用いたウイルス分離を行った。分離ウイルスについて赤血球凝集抑制(HI)反応、RT-PCR 法およびリアルタイム PCR 法によりウイルス同定を行った。

インフルエンザウイルスは 2014 年 12 月から A(H3)型の検出数が最大となり以降シーズンを通して検出された。B 型は昨シーズンに続いて山形系統が検出された。昨シーズンの流行の中心であった A(H1)pdm09 型は 2014 年 12 月に 1 検体検出されたのみであった。2014 年 8 月と 9 月に 2 検体から Dengue ウイルス 1 型が検出され、県内でも国内感染の Dengue 熱患者の発生が確認された。

(資料 表 2-12)

インフル様疾患(集団かぜ)のウイルス検査

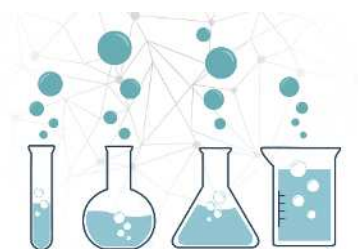
平成 26 年 12 月にインフル様疾患(集団かぜ)が発生した 4 施設について、各施設 3~10 名を対象に咽頭ぬぐい液からのウイルス検出を行った。3 施設から A(H3)型が、1 施設から B 型(山形系統)が検出された。

(資料 表 2-13)

食中毒・集団下痢症のウイルス検査

平成 26 年度に保健所から依頼された食中毒、集団下痢症 58 事例の検体についてイムノクロマト法、リアルタイム PCR 法および RT-PCR 法によるウイルス検出を行った。その結果、43 事例からウイルスが検出された。内訳は、ノロウイルス G 単独検出事例が 34 件と最も多かった。その他 A 型肝炎(1A)が 3 事例、A 群ロタウイルス単独、ノロウイルス GI、GII 混合が各 2 事例、サポウイルスとノロウイルス GII との混合、サポウイルスとノロウイルス GI、GII 混合の検出事例が各 1 事例であった。

(資料 表 2-14)



環境科学部

試験検査 実績

科名	区 分	小 区 分	行政試験	
			検体数	項目数
大 気 科	環境大気試験	大気汚染常時監視	4,745	35,040
		有害大気汚染物質	60	540
		アスベスト	30	30
		環境影響	0	0
		騒音常時監視	0	0
		PM2.5	8,867	10,633
	発生源試験	事業場排ガス	25	165
		沿道調査	0	0
		悪臭パネル試験	12	12
	環境放射能試験	放射能常時監視	365	365
		環境試料	23	1,771
		降 水	91	91
		精度管理模擬試料	7	1,078
		事故対応	16	320
	その他	事故, 苦情等	17	210
		受託調査	10	56
大 気 科 計			14,268	50,311
水 質 科	環境水質試験	公共用水	532	7,434
		富士五湖	268	4,607
		環境影響	1	1
		モニタリング等	61	218
	その他	事故, 苦情等	12	242
		受託調査	3	36
水 質 科 計			877	12,538
廃 棄 物 科	廃棄物試験	焼却灰	4	28
	浄化槽放流水試験	浄化槽	116	408
	土壌汚染	モニタリング	3	15
	排水試験	事業場排水	338	2,509
		一般廃棄物処分場	34	269
		産業廃棄物処理施設	23	509
	その他	事故, 苦情等	11	266
廃棄物科 計			529	4,004
環境科学部 計			15,674	66,853

(1) 大気科

環境大気試験

大気汚染常時監視局 13 局の機器の稼働状況を監視し、オキシダント濃度、窒素酸化物濃度、微小粒子状物質 (PM2.5) 濃度などのデータの確定作業を行った。また測定局の補間を目的に、オキシダント濃度を測定した。

またベンゼンなど有害大気汚染物質 9 物質について延べ 60 検体を測定した。

アスベストは、一般環境の延べ 8 地点で濃度を測定した。

以上の結果は、「やまなしの環境」で公表される。

発生源試験

事業場の煙道延べ 25 施設で排ガス中の窒素酸化物などの検査を行った。結果は「やまなしの環境」で公表される。

受託調査等

環境省の「化学物質環境実態調査」に参画し、富士吉田市内で粉じんを採取した。調査結果は環境省から公表される。

放射能水準調査

原子力規制委員会の事業としてモニタリングポスト 1 局で放射線を常時監視した。また、月間降下物、土壌や食品、飲用水、大気浮遊粉じんなどの環境試料 23 検体の放射性元素を測定した。さらに降水を延べ 91 回測定した。以上の結果は、現在は原子力規制委員会から公表される。

放射能精度管理試験

原子力規制委員会が配布する放射能試料の計 7 検体を測定し、分析精度を確認した。

福島原発事故対応モニタリング調査

平成 23 年 3 月 11 日に発生した福島第一原子力発電所事故対応のモニタリング調査を、原子力規制委員会の指示により行った。毎平日に採取した陸水 (水道水) の 4 検体について、Ge 半導体各種分析装置による分析を行った。またサーベイメータにより空間線量率の測定を毎月 1 回行った。これらの結果は山梨県及び原子力規制委員会のホームページで公表されている。

リアモーターカー走行試験に伴う騒音測定

リアモーターカーの高速走行に伴う騒音の実態を把握するため、述べ 15 地点、208 回の騒音測定をおこなった。

苦情、事故に伴う検査

悪臭の苦情に対応するために、パネル選定試験を林務環境事務所などの職員 12 名に行った。また廃棄物の不法投棄に係る事案で、2 検体について悪臭検査を行った。(資料表 3)

(2) 水質科

環境水質試験

河川、湖沼の公共用水域と地下水について延べ 53 地点のクロロホルムなど要監視項目を測定した。湖沼の水質を保全する目的で、富士五湖の延べ 268 検体について水質を調査した。これらは、「やまなしの環境」に公表される。

また水生生物調査法研修を行った。さらに土砂崩落やミニ処分場などの影響や経過を知るため、延べ 61 地点で水質をモニタリングした。

苦情、事故に伴う検査

水質汚濁の事故や苦情で持ち込まれた延べ 5 検体について試験を行った。(資料表 3)

受託調査等

環境省の「化学物質環境実態調査」に参画し、甲府市内の河川で底質を採取した。調査結果は環境省から公表される。

(3) 廃棄物科

廃棄物試験

山梨県内のごみ焼却場の焼却灰 4 件について、溶出試験を行った。

排水試験

事業場の排水延べ 338 検体、し尿処理施設、最終処分場などの放流水延べ 57 検体の検査を行った。これらの概況は「やまなしの環境」で公表される。

浄化槽放流水試験

平成 26 年度浄化槽放流水検査計画に基づき、浄化槽放流水 116 検体について検査を行った。

苦情、事故に伴う検査

不法投棄および廃棄物処理施設に係る緊急事案について 21 検体の試験を行った。(資料表 3)

資 料

- 表 1-1 平成 26 年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果
- 表 1-2 平成 26 年度 山梨県内流通輸入食品（農産物・冷凍食品）残留農薬試験結果
- 表 1-3 平成 26 年度 食品等の理化学検査件数
- 表 2-1 平成 26 年度 衛生動物検査結果
- 表 2-2 平成 27 年 甲府地区スギ・ヒノキ花粉量別日数及び平均値
- 表 2-3 平成 26 年度 細菌感染症等に関する検査結果
- 表 2-4 平成 26 年度 腸管出血性大腸菌感染症志賀毒素検査
- 表 2-5 平成 26 年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果
- 表 2-6 平成 26 年度 食品・医薬品等に関する細菌検査結果
- 表 2-7 平成 26 年度 浴槽水等レジオネラ属菌検査結果
- 表 2-8 平成 26 年度 収去食品の細菌検査件数
- 表 2-9 平成 26 年度 ふきとり検査結果
- 表 2-10 平成 26 年度 日本脳炎流行予測調査
- 表 2-11 平成 26 年度 インフルエンザ流行予測調査結果
- 表 2-12 平成 26 年度 月別ウイルス検出状況と臨床像（食中毒・集団下痢症を除く）
- 表 2-13 平成 26 年度 インフルエンザ様疾患（集団かぜ）発生時のウイルス検索
- 表 2-14 平成 26 年度 食中毒・集団下痢症のウイルス検査
- 表 3 平成 26 年度 環境汚染に係る苦情、事故に伴う検査

表 1-1 平成 26 年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果

食品名	キャベツ	だいこん	さといも	おうとう	ほうれんそう	すもも
検体数	4	6	2	6	6	10
イミダクロプリド	0.004(1)		0.02(1)		0.006 ~ 0.01(2)	0.009 ~ 0.01(4)
エトキサゾール						
オキサジキシル						
クロチアニジン					0.2(1)	
クロルピリホス						
シプロジニル				0.006 ~ 0.009(4)		
シベルメトリン						
スピノサド					0.5(1)	
ダイアジノン						
チアクロプリド						0.005(1)
テトラコナゾール						
テブコナゾール						
テブフェンピラド				0.6(1)		
テフルトリン		0.002(1)				
テルブトリン						
トリアジメホン						
トルフェンピラド		0.007(1)				
ピフェントリン				0.002 ~ 0.1(4)		
フェンブコナゾール				0.003 ~ 0.4(5)		
フサライド					0.002(1)	
ブプロフェジン				0.01 ~ 0.3(6)		
フルトラニル						
プロボスキル	0.001(2)					
プロマシル					0.001(1)	
ヘキサコナゾール				0.08(1)		
ベルメトリン					0.01(1)	0.002 ~ 0.03(6)
メチダチオン				0.005(1)		

()内は検出数

(単位：ppm)

以下の食品からは農薬は検出されなかった。

とうもろこし(4)、いんげん(2)、なす(1)、牛の筋肉(10)、豚の筋肉(10)、鶏肉(5)

表 1-1 平成 26 年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果 (続き)

食品名	もも	きゅうり	ぶどう	トマト	かき
検体数	13	8	19	2	4
イミダクロプリド			0.002 ~ 0.05(5)		
エトキサゾール		0.05(1)			
オキサジキシル		0.007(1)			
クロチアニジン					
クロルピリホス	0.001 ~ 0.005(5)		0.003 ~ 0.006(3)		
シプロジニル			0.005 ~ 0.04(11)		
シベルメトリン		0.02(1)			
スピノサド					
ダイアジノン			0.004(1)		
チアクロプリド					0.01(1)
テトラコナゾール		0.004(1)			
テブコナゾール	0.002(1)		0.05 ~ 0.2(3)		0.005(1)
テブフェンピラド			0.001(1)		
テフルトリン					
テルブトリン					0.01(1)
トリアジメホン			0.002(1)		
トルフェンピラド					
ピフェントリン					
フェンブコナゾール	0.003 ~ 0.01(8)				
フサライド					
ブプロフェジン					
フルトラニル				0.002(1)	
プロボスキル					
プロマシル					
ヘキサコナゾール					
ペルメトリン			0.003(1)		0.007(1)
メチダチオン					

() 内は検出数

(単位 : ppm)

表 1-2 平成 26 年度 山梨県内流通輸入食品 (農産物・冷凍食品) 残留農薬試験結果

食品名	かぼちゃ	冷凍ブロッコリ	冷凍えだまめ	グレープフルーツ	レモン
検体数	4	3	1	2	2
イミダクロプリド			0.003(1)	0.002 ~ 0.005(2)	0.02(1)
エトフェンプロックス	0.007(1)				
クロルピリホス	0.002(1)	0.002(1)			
シプロジニル		0.01(1)			
テフルトリン	0.001(1)				
ピリダベン				0.002(1)	
ピリブチカルブ	0.001(1)				
ピリプロキシフェン	0.007(1)				
フェンブコナゾール				0.003 ~ 0.004(2)	
マイクロブタニル	0.001(1)				

() 内は検出数

(単位 : ppm)

以下の食品からは農薬は検出されなかった。

ブロッコリ (非冷凍) (2)、冷凍さといも (4)、冷凍とうもろこし、オレンジ (2)

表 1-3 平成 26 年度 食品等の理化学検査件数

収去者	衛生業務課																				小計	保健所			合計		
	乳・乳製品	アイスクリーム類	生あん類	菓子類	果実酒・雑酒	食肉製品	こんにゃく粉	淡水魚（マス類等）	魚肉ねり製品	鶏卵	はちみつ	清涼飲料水・果汁	ミネラルウォーター	調味料	漬物	そうざい	あんぼ柿・ころ柿	めん類	乾燥果実	おもちや		器具及び容器包装	かんきつ類	魚肉ねり製品		めん類	しらす（市場）
検体数	10	4	9	4	136	18	5	10	14	15	5	52	51	5	26	5	16	31	21	6	9	6	458	2	13	7	480
二酸化硫黄			9		136		5										16		21				187				187
ソルビン酸					136	18			14						26				17				211	2			213
安息香酸												52	5	26	4								87				87
パラオキシ安息香酸												52	5	26	4								87				87
サッカリンナトリウム													1	3									4				4
プロピレングリコール																		31					31		13		44
水分含量																							0				0
過酸化水素																							0			7	7
タール色素				4											12				5				21				21
亜硝酸根						18										1							19				19
混濁												52	51										103				103
沈殿物及び固形の異物												52	51										103				103
ヒ素												52	51							6			109				109
鉛												52	51							6	9		118				118
カドミウム												52	51							2	9		114				114
スズ												52	51										103				103
PH												52	51										103				103
乳脂肪分	10	4																					14				14
無脂乳固形分	10	4																					14				14
比重	1																						1				1
酸度	1																						1				1
シアン化合物			9																				9				9
防ばい剤																						6	6				6
合成抗菌剤							10		15														25				25
抗生物質							10		15	5													30				30
フルベンダゾール									15														15				15
合計	22	8	18	4	272	36	5	20	14	45	5	468	357	11	93	9	16	31	43	14	18	6	1,515	2	13	7	1,537

表 2-1 平成 26 年度 衛生動物検査結果

(衛生動物・寄生虫関連検査)					(食中毒関連検査)				
分類	a: 昆虫類	b: ダニ類	c: その他	合計	月 日	依頼機関	検査項目	検査件数	結果
A: 食品異物	4	0	1	5	7.9	中北保健所	ナナホシクドア	3	陰性
B: 衛生動物	27	8	7	42	2.5	中北保健所	ナナホシクドア、クドア属	2	陰性
C: 寄生虫	0	0	0	0					
D: 電話相談	5	2	4	11					
計	36	10	12	58					

(内訳)

月 日	依頼機関	数量	結果	備考	区分
4.4	朝日新聞	1	問い合わせ	マダニ、SFTSについて	D,b
4.8	南アルプス市民	1	電話相談	ハチの生態について	D,a
4.21	中北保健所	1	問い合わせ	ミヤイリガイに触れたので寄生虫の感染が心配	D,c
4.21	中北保健所	1	ユスリカ成虫	環境中にいた虫の同定以来	B,a
4.28	県民	1	キアシジガバチ成虫	ハチの生態や種類を知りたい	B,a
5.7	中北保健所	1	タケノホソクロバ幼虫	糸を吐いて室内に大量に発生	B,a
5.9	峡東保健所	多数	オオワラジカイガラムシ成虫、幼虫	家屋基礎と堀に大量発生	B,a
5.9	中北保健所 峡北支所	多数	ケバエ類成虫	民家近くに大量発生	B,a
5.9	中北保健所	1	ツマグロヒョウモン幼虫	チョウ目幼虫の同定確認	B,a
5.13	韮崎市	1	電話相談	シロアリの生態について	D,a
5.13	中北保健所	1	クロヒゲカワゲラ成虫	窓際や室内に大量に侵入する虫	B,a
5.23	中北HC 峡北支所	多数	イエバエ科成虫	豚舎がある農家において大量発生	B,a
5.23	中北保健所	多数	トビムシ類	民家のクローゼット、トイレなどに大量発生	B,a
5.28	中北保健所 峡北支所	1	シュルツェマダニ雌成虫	マダニの同定依頼	B,b
6.4	中北保健所 峡北支所	多数	トビムシ類	室内に大量発生	B,a
6.9	峡南保健所	多数	テングチョウ成虫	野外において大量に発生	B,a
6.11	峡東保健所	1	電話相談	スズメバチ発生状況について	D,a
6.13	中北保健所	1	電話相談	テングチョウ成虫について	D,a
6.16	中北保健所 峡北支所	1	ハムシ科成虫	腕を噛みつかれた	B,a
6.20	峡東保健所	1	食品中の異物	カタラーゼ試験	A,a
6.20	中北保健所	多数	コウモリの糞	軒下に落ちている物体	B,c
7.9	中北保健所 峡北支所	1	フタゲチマダニ	マダニの同定依頼	B,b
7.10	動物愛護指導センター	多数	電話相談	ブユ成虫対策について	B,a
7.11	県民	2	ナガサキニセケバエ成虫	屋外に大量発生	B,a
7.14	県民	1	グンバイムシ成虫	屋外に大量発生	B,a
7.14	富士・東部保健所	3	イエダニ	室内に発生	B,b
7.22	峡東保健所	1	2014.6.20の食品中からの異物事例	イエバエの文献提供依頼	B,a
7.29	中北保健所	多数	ヒメマキムシ科成虫	室内に大量発生	B,a
8.5	中北保健所	7	クロクサアリ(有翅アリ)	室内に大量発生	B,a
8.7	富士・東部保健所	1	鱗翅目幼虫	納豆に虫	A,a
8.12	巨摩共立病院	1	電話相談	ヒトの犬糸状虫症について	D,c
8.13	峡南保健所	1	フタゲチマダニ	腕に付いていた	B,b
8.20	峡南農務事務所	多数	羽アリ	飛翔昆虫が大量発生	B,a
8.22	峡東保健所	1	マダニ類	イノシシに付いていた虫の写真の同定依頼	B,b
9.1	中北保健所 峡北支所	1	フタゲチマダニ成虫	医療機関からの同定依頼	B,b
9.5	県民	1	電話相談	マダニ駆除および予防等について	D,b
9.9	峡東保健所	1	電話相談	蚊成虫の駆除について	D,a
9.17	峡東保健所	1	マダニ類若虫	藪にいた虫の同定依頼	B,b
9.30	中北保健所	3	蚊成虫、トビケラ成虫	不快な虫の同定依頼	B,a
9.30	峡東保健所	1	マダニ類成虫	医療機関からの同定依頼	B,b

月日	依頼機関	数量	結果	備考	区分
10.20	県民	1	電話相談	ハナバチについて	B,a
10.24	中北保健所峡北支所	62	ケバエ科幼虫	野外において大量に発生	B,a
10.27	中北保健所峡北支所	32	ケバエ科幼虫	庭先、コンクリートや砂利道に大量発生	B,a
10.28	県民	1	電話相談	ネズミの習性について	D,c
10.31	富士・東部保健所	18	ノシメマダラメイガ幼虫	室内に発生したウジ虫の同定依頼	B,a
11.5	中北保健所峡北支所	1	問い合わせ	エキノコックス症の検査等について	D,c
11.13	峡東保健所	1	セアカゴケグモ	甲州市内で発見されたセアカゴケグモの同定依頼	B,c
11.14	峡東保健所	1	ハイイロゴケグモではない	2014年10月に撮影したクモはゴケグモか？	B,c
11.17	中北保健所峡北支所	1	ジョロウグモ	セアカゴケグモ疑い事例	B,c
11.17	富士・東部保健所	1	セアカゴケグモではないクモ	セアカゴケグモ疑い事例	B,c
11.25	衛生薬務課	1	アブラムシ類(無翅)	白菜浅漬けに虫	A,a
12.1	峡東保健所	多数	ノミバエ類成虫	大量のコバエ類が室内に進入	B,a
12.1	中北保健所	1	チャバネゴキブリ	総菜(メンチカツ)中の異物	A,a
12.3	峡東保健所	1	チャバネゴキブリ	室内に見たことがない虫がいて困る	B,a
12.4	中北保健所	2	マダラヒメグモ	野外に毒グモ	B,c
12.9	峡東保健所	多数	ネズミの糞	室内に多数の1センチくらいの物体が落ちている	B,c
1.22	峡東保健所	1	カメムシの1種	子供が刺され、医療機関を受診した。	B,a
3.10	中北保健所	1	人毛	焼き菓子の異物	A,c

表2-2 平成27年 甲府地区スギ・ヒノキ花粉量別日数及び平均値

測定期間	月/日～月/日	花粉量		スギ・ヒノキ花粉量別日数					花粉量平均値	
		スギ	ヒノキ	微量 0～1	少ない ～10	やや多い ～30	多い ～100	非常に多い 101～	スギ	ヒノキ
第1週	1/5～1/11	0.0	0.0	7					0.0	0.0
2	1/12～1/18	0.7	0.0	7					0.1	0.0
3	1/19～1/25	0.2	0.0	7					0.0	0.0
4	1/26～2/1	0.2	0.0	7					0.0	0.0
5	2/2～2/8	1.8	0.0	7					0.3	0.0
6	2/9～2/15	2.5	0.0	7					0.4	0.0
7	2/16～2/22	56.2	0.0	5		1	1		8.0	0.0
8	2/23～3/1	275.0	0.0		2	2	2	1	39.3	0.0
9	3/2～3/8	360.2	2.3		1	3	1	2	51.5	0.3
10	3/9～3/15	112.0	2.7		3	3	1		16.0	0.4
11	3/16～3/22	271.5	81.9		1	1	3	1	45.3	13.7
12	3/23～3/29	80.3	84.0		2	1	3	1	11.5	12.0
13	3/30～4/5	32.1	355.8			1	3	3	4.6	50.8
14	4/6～4/12	8.8	198.3	1	3	1	1	1	1.3	28.3
15	4/13～4/19	4.2	42.9	2	4	1			0.6	6.1
16	4/20～4/26	0.5	49.1	0	6	1			0.1	7.0
17	4/27～5/3		10.2	1	6				0.0	1.5
18	5/4～5/10		8.6	3	4				0.0	1.2
19	5/11～5/17		2.5	7					0.0	0.4
20	5/18～5/21		0.2	4					0.0	0.1
		1206.2	838.5	54	32	15	15	9	9.0	6.1

観測場所：衛生環境研究所屋上 花粉量：1cm²あたりの換算値(個)

表 2-3 平成 26 年度 細菌感染症等に関する検査結果

月 日	依頼機関	検査項目	検体数 (菌株数)	結果 <株数>
4.6	峡東HC	赤痢菌	4	-
5.16	中北HC	赤痢菌	1	-
6.11	富士・東部HC	EHEC	15	-
6.21	富士・東部HC	EHEC	1	<i>E. coli</i> 0111:HNM (Stx1,2) <1>
6.23	中北HC峡北支所	EHEC	8	<i>E. coli</i> 0157:H7 (Stx1,2) <2>
6.24	中北HC	EHEC	4	-
6.26	富士・東部HC	EHEC	1	<i>E. coli</i> 0111:HNM (Stx1,2) <1>
6.26	富士・東部HC	EHEC	2	<i>E. coli</i> 0157:HNM (Stx1,2) <1>
6.27	中北HC	EHEC	17	-
6.29	富士・東部HC	EHEC	1	-
7.17	中北HC峡北支所	EHEC	6	-
7.22	甲府共立HP	EHEC	1	<i>E. coli</i> 026:H11 (Stx1) <1>
7.23	中北HC峡北支所	EHEC	5	-
7.23	中北HC	EHEC	4	<i>E. coli</i> 026:H11 (Stx1) <1>
7.24	富士・東部HC	EHEC	2	-
8.5	中北HC峡北支所	レジオネラ属菌	1	-
8.5	富士・東部HC	EHEC	3	<i>E. coli</i> 0145:HNM (Stx1) <1>
8.8	富士・東部HC	EHEC	1	-
8.14	甲府共立HP	EHEC	1	<i>E. coli</i> 0111:HNM (Stx1) <1>
8.15	中北HC峡北支所	EHEC	3	-
8.18	甲府共立HP	EHEC	1	<i>E. coli</i> 0157:H7 (Stx1,2) <1>
8.19	峡東HC	EHEC	6	-
8.22	峡南HC	EHEC	5	-
8.28	甲府共立HP	EHEC	1	-
9.12	峡東HC	レジオネラ属菌	1	<i>L. pneumophila</i> SG1 <1>
9.22	中北HC	EHEC	1	-
9.24	甲府共立HP	EHEC	1	<i>E. coli</i> 0157:H7 (Stx2) <1>
9.24	富士・東部HC	EHEC	7	<i>E. coli</i> 0157:HNM (Stx1,2) <2> <i>E. coli</i> 084:H11 (Stx1) <1> <i>E. coli</i> OUT:H2 (Stx2) <1>
9.25	中北HC	EHEC	1	-
9.30	富士・東部HC	EHEC	13	<i>E. coli</i> 0115:H10 (Stx1) <1>
10.6	富士・東部HC	EHEC	3	-
10.12	中北HC	EHEC	21	<i>E. coli</i> 0146:H21 (Stx1) <2>
10.12	中北HC峡北支所	EHEC	4	-
10.14	富士・東部HC	EHEC	1	-
10.21	中北HC	EHEC	1	-
10.28	中北HC	EHEC	2	-
10.31	中北HC	EHEC	1	-
11.11	中北HC峡北支所	EHEC	7	-
3.12	中北HC	バラチフス	2	-
3.15	中北HC峡北支所	EHEC	4	-
3.19	中北HC峡北支所	赤痢菌	3	-
3.20	富士・東部HC	EHEC	11	<i>E. coli</i> 0146:H21 (Stx1) <1>
合計			178	

EHEC : 腸管出血性大腸菌

表 2-4 平成 26 年度 腸管出血性大腸菌感染症志賀毒素検査

No.	分離月日	血清型	年齢・性	患者・保菌者別	志賀毒素型	
1	6.21	O111:HNM	7・F	保菌者	Stx1	Stx2
2	6.25	O157:H7	21・F	患者	Stx1	Stx2
3	6.25	O157:H7	0・F	患者	Stx1	Stx2
4	6.26	O157:HNM	23・M	保菌者	Stx1	Stx2
5	7.22	O26:H11	56・F	患者	Stx1	
6	7.28	O26:H11	79・F	保菌者	Stx1	
7	8.7	O145:HNM	35・M	保菌者	Stx1	
8	8.14	O111:HNM	12・F	患者	Stx1	
9	8.18	O157:H7	21・F	患者	Stx1	Stx2
10	9.24	O157:H7	49・F	患者		Stx2
11	9.26	O157:HNM	19・F	保菌者	Stx1	Stx2
12	9.26	O157:HNM	19・F	保菌者	Stx1	Stx2
13	9.26	OUT:H2	19・F	保菌者	Stx1	
14	9.26	O84:H11	20・F	保菌者		Stx2
15	9.29	O115:H10	19・M	保菌者	Stx1	
16	10.16	O146:H21	43・M	保菌者	Stx1	
17	10.16	O146:H21	52・F	保菌者	Stx1	
18	3.25	O146:H21	42・M	保菌者	Stx1	

表 2-5 平成 26 年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果

月 日	依頼機関	検 体 数			計	検 出 菌	
		糞便・吐物	食品	その他		ヒト・菌株由来(株数)	食品・その他由来(株数)
4.4	富士・東部HC	3		7	10	-	-
6.17	中北HC峡北支所	15	8	18	41	<i>C. perfringens</i> (4)	-
6.26	中北HC峡北支所	1			1	<i>S. Enteritidis</i> (1)	
6.28	峡東HC	7			7	<i>C. perfringens</i> (1) <i>S. aureus</i> (1)	
7.8	峡南HC	2			2	<i>C. perfringens</i> (2)	
7.8	中北HC	17	22	5	44	-	<i>S. aureus</i> (1)
7.8	中北HC峡北支所	1			1	-	
7.11	富士・東部HC	41	7	19	67	EPEC (1) <i>S. aureus</i> (1)	<i>S. aureus</i> (1)
8.20	富士・東部HC	6		5	11	<i>C. jejuni</i> (2)	-
9.3	峡東HC	8		5	13	<i>C. jejuni</i> (1)	<i>S. aureus</i> (1)
9.25	富士・東部HC	15	37	10	62	<i>S. aureus</i> (4) EHEC (1)	<i>S. aureus</i> (18)
9.25	峡東HC	1			1	<i>S. aureus</i> (1)	
10.2	中北HC	14	1	6	21	EHEC (1)	EHEC (1)
12.4	富士・東部HC	1			1	-	
12.11	富士・東部HC	1			1	-	
12.15	中北HC峡北支所	12			12	<i>S. aureus</i> (2)	
1.16	中北HC	13		5	18	-	<i>S. aureus</i> (1)
1.20	中北HC峡北支所	9		2	11	-	-
1.24	峡東HC	6		5	11	-	-
1.30	峡東HC	69		10	79	未同定	未同定
2.3	中北HC	29	67	5	101	<i>S. aureus</i> (1) <i>C. jejuni</i> (1)	-
2.4	中北HC峡北支所	2			2	-	
2.5	峡東HC	1			1	-	
2.23	富士・東部HC	7	32	5	44	-	-
2.27	富士・東部HC	4			4	-	-
3.2	富士・東部HC	3		4	7	-	-
3.11	中北HC	1			1	-	
合計		289	174	111	574		

H C : 保健所

表 2-6 平成 26 年度 食品・医薬品等に関する細菌検査結果

月 日	依頼機関	検査項目	検体	検体数	結果
7.29	中北HC	真菌	生菓子	1	<i>Cladosporium</i> 属
9.19	中北HC	真菌	菓子	1	<i>Cladosporium sphaerospermum</i> <i>Eurotium</i> 属 <i>Penicillium</i> 属
1.16	衛生薬務課	無菌試験	真空採血管	1	-
合計				3	

表 2-7 平成 26 年度 浴槽水等レジオネラ属菌検査結果

採水日	検体数	陽性検体数	菌種 (株数)	群血清 (株数)
4.24	10	0		
8.4	10	0		
9.26	8	4	<i>L. pneumophila</i> (10)	SG1 (3), SG4 (2), SG9 (1), SG15 (4)
10.22	7	4	<i>L. pneumophila</i> (4)	SG5 (1), SG8 (3)
11.20	5	1	<i>L. pneumophila</i> (1)	SG3
2.20	7	1	<i>L. pneumophila</i> (1)	SG1
3.23	5			
合計	52	10		

表 2-9 平成 26 年度 ふきとり検査結果

依頼機関	大腸菌群		黄色ブドウ球菌	
	検査数	陽性数 (%)	検査数	陽性数 (%)
衛生薬務課	1,398	200(14)	1,398	26(2)
保健所 (検査車)	827	95(11)	827	17(2)
合計	2,225	295(13)	2,225	43(2)

表 2-10 平成 26 年度 日本脳炎流行予測調査

回数	採血月日	調査頭数	HI抗体価 ^{*1}						HI抗体 陽性数 ^{*2} (%)	2ME感受性抗体 陽性数 (%)
			< 10	10	20	40	80	160		
1	7.17	10	8	2					2 (20)	0 (0)
2	7.30	10	7	3					3 (30)	0 (0)
3	8.6	10	8	1	1				2 (20)	0 (0)
4	8.14	10		9	1				10 (100)	0 (0)
5	8.27	10		8	2				10 (100)	0 (0)
6	9.3	10	1	9					9 (90)	0 (0)
7	9.11	10	2	8					8 (80)	0 (0)
8	9.24	10		10					10 (100)	0 (0)

*1: 抗原 JaGAR#01 *2: 赤血球凝集抑制(HI)抗体価 10

表2-8 平成26年度 収去食品の細菌検査件数

収去区分	分類	一般細菌数	大腸菌群	E.coli	O26	O111	O157	黄色ブドウ球菌	セラウス菌	サルモネラ属菌	クロストリジウム属菌	リステリア属菌	乳酸菌数	抗生物質	塩分濃度	鮮度試験	E.coli (菌数)	カンピロバクター属	腸炎ビブリオ (菌数)	Vibrio属 (菌数)	腸炎ビブリオ (増菌培養)	合計
衛生業務課	生食用魚介類	10													4	4			10			10
	生食用かま	4													4	4			4			20
	魚肉なり製品	14 (1)	14 (1)																			14 (1)
	魚肉製品	17	1	16	6	6	6	16			3											3
	液卵	3								1												2
	牛乳	1	1																			10
	牛乳	5	5																			2
	乳酸菌飲料	5	5																			10
	発酵乳	4	4											4								8
	アイスクリーム	2	2																			4
	ラクトアイス	2	2																			4
	氷菓	3	3																			6
	めん類	37	37	31				37														111
	めん類	141 (3)	141 (2)	141 (1)	20	20	20	141 (2)														483 (5)
	そうざい(加熱処理)	42 (8)	42 (6)	42 (2)	10	10	10	42														156 (8)
	そうざい(未加熱処理)	54 (4)	54	54				54		53 (4)												215 (4)
	弁当類	6 (1)	6 (1)	6				6														12 (1)
	包装豆腐	10 (1)	10 (1)	10				10														20 (1)
	その他の豆腐	3	3	3				3														6
	漬物、一夜漬け	3	3	3				3														9
カット野菜	10	10	10				10														30	
洋生菓子	27 (1)	27	27				27 (1)														81 (1)	
和生菓子	24	24	10				14														48	
冷凍食品	51 (1)	44 (1)	51				51														95 (1)	
ミネラルウォーター	52	52	52				52														52	
その他の清涼飲料水	14											14									14	
ナチュラルチーズ	3	3	3				3														9	
その他の菓子	1	1	1				1														2	
合成樹脂製容器包装食品	30						30														30	
抗生物質																						
小計	573 (20)	421 (11)	208 (1)	36 (3)	36 (3)	36 (3)	36 (3)	333 (3)	53 (4)	17	3	14	4	30	4	4	4	14	14	3	1,524 (22)	
アイスクリーム	2	2	2				2														4	
アイスミルク	17 (3)	17 (3)	17 (3)				17 (3)														34 (3)	
ラクトアイス	12 (3)	12 (3)	12 (3)				12 (3)														24 (3)	
めん類	16 (1)	16 (1)	16 (1)				16														48 (1)	
めん類	27	27	27				27														81	
そうざい(加熱処理)	22 (6)	22 (4)	22 (2)				22 (2)														66 (8)	
そうざい(未加熱処理)	11	11	11				11														44	
弁当類	17 (3)	17 (1)	17 (2)				17														51 (3)	
洋生菓子	23 (1)	23 (1)	23				23														69 (1)	
和生菓子	11 (1)	11 (1)	11				11			11											55 (1)	
生食用食肉	28 (6)	28 (6)	28				28														84 (6)	
調理ハム	13 (1)	13 (1)	13				13														26 (1)	
包装豆腐																						
小計	199 (25)	199 (15)	87 (8)	112 (2)				155 (2)	11	11								11			536 (27)	
生食用魚介類	4	4	4				4														4	
生食用かま	9	9	2				9														45	
魚肉なり製品	2	2	2				2														2	
小計	15	9	2				9														51	
合計	787 (45)	629 (26)	297 (9)	416 (5)	36 (3)	36 (3)	36 (3)	488 (5)	64 (4)	28	3	14	4	30	13	13	13	11	11	3	2,161 (49)	

() 内は「規格基準」、「衛生規範」、又は「山梨県食品指導基準」に適合していない数

表2-11 平成26年度 インフルエンザ流行予測調査結果

1: A/加ワルニア/7/2009(A (H1N1) pdm09亜型)株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体価								10抗体 保有者数 (%)	40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	640		
5~9	22	0	0	1	2	6	5	5	3	22 (100.0)	21 (95.5)
10~14	22	0	0	1	0	5	9	5	2	22 (100.0)	21 (95.5)
15~19	22	1	0	5	4	3	5	2	2	21 (95.5)	16 (72.7)
20~29	22	5	1	4	2	5	5	0	0	17 (77.3)	12 (54.5)
30~39	22	0	1	3	0	8	7	2	1	22 (100.0)	18 (81.8)
40~49	22	0	1	2	1	3	8	5	2	22 (100.0)	19 (86.4)
50~59	22	0	0	0	0	1	5	12	4	22 (100.0)	22 (100.0)
60~	22	0	0	0	0	1	5	7	9	22 (100.0)	22 (100.0)
全年齢層	176	6	3	16	9	32	49	38	23	170 (96.6)	151 (85.8)

2: A/ニューヨーク/39/2012(A (H3N2) 亜型)株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体価								10抗体 保有者数 (%)	40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	640		
5~9	22	1	0	1	3	3	3	4	7	21 (95.5)	20 (90.9)
10~14	22	0	0	0	3	4	5	4	6	22 (100.0)	22 (100.0)
15~19	22	0	1	9	6	2	0	1	3	22 (100.0)	12 (54.5)
20~29	22	0	1	16	5	0	0	0	0	22 (100.0)	5 (22.7)
30~39	22	1	1	5	4	2	8	1	0	21 (95.5)	15 (68.2)
40~49	22	0	1	5	7	2	4	3	0	22 (100.0)	16 (72.7)
50~59	22	0	0	1	11	4	4	1	1	22 (100.0)	21 (95.5)
60~	22	0	1	5	11	3	2	0	0	22 (100.0)	16 (72.7)
全年齢層	176	2	5	42	50	20	26	14	17	174 (98.9)	127 (72.2)

3: B/マサチューセッツ/2/2012(B型(山形系統))株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体価								10抗体 保有者数 (%)	40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	640		
5~9	22	1	2	4	5	6	2	0	2	21 (95.5)	15 (68.2)
10~14	22	0	0	3	11	6	2	0	0	22 (100.0)	19 (86.4)
15~19	22	0	0	4	5	6	7	0	0	22 (100.0)	18 (81.8)
20~29	22	0	1	4	8	7	1	0	1	22 (100.0)	17 (77.3)
30~39	22	0	1	4	5	7	3	1	1	22 (100.0)	17 (77.3)
40~49	22	0	2	4	7	6	1	1	1	22 (100.0)	16 (72.7)
50~59	22	0	1	6	4	9	1	1	0	22 (100.0)	15 (68.2)
60~	22	0	2	3	4	13	0	0	0	22 (100.0)	17 (77.3)
全年齢層	176	1	9	32	49	60	17	3	5	175 (99.4)	134 (76.1)

4: B/ブリスベン/60/2008(B型(ビクトリア系統))株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体価								10抗体 保有者数 (%)	40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	640		
5~9	22	4	4	5	1	6	0	2	0	18 (81.8)	9 (40.9)
10~14	22	0	3	5	8	4	2	0	0	22 (100.0)	14 (63.6)
15~19	22	0	4	5	6	6	1	0	0	22 (100.0)	13 (59.1)
20~29	22	4	7	8	1	2	0	0	0	18 (81.8)	3 (13.6)
30~39	22	0	4	6	8	3	1	0	0	22 (100.0)	12 (54.5)
40~49	22	0	4	4	7	6	1	0	0	22 (100.0)	14 (63.6)
50~59	22	0	3	8	7	3	1	0	0	22 (100.0)	11 (50.0)
60~	22	0	5	8	9	0	0	0	0	22 (100.0)	9 (40.9)
全年齢層	176	8	34	49	47	30	6	2	0	168 (95.5)	85 (48.3)

表 2-12 平成 26 年度 月別ウイルス検出状況と臨床像（食中毒・集団下痢症を除く）

検体採取年月	2014年												計	臨床像（検出数）	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
検体数	13	19	3	4	4	12	1	0	55	24	16	27	178		
検出ウイルス	デングウイルス 1型	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2	デング熱疑い(2)	
	麻疹ウイルス D8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	麻疹疑い(1)	
	A(H1N1)2009pdm	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	インフルエンザ様(2)	
	インフルエンザ A(H3)	2	1	2	-	-	-	-	-	43	22	12	11	93	インフルエンザ様(93)
	B	9	15	-	-	-	-	-	-	4	1	-	5	34	インフルエンザ様(34)
合計	12	16	2	0	1	1	0	0	48	23	13	16	132		

表 2-13 平成 26 年度 インフル様疾患（集団かぜ）発生時のウイルス検索

集団発生施設と月日	ウイルス検出*		
	検体数	陽性数	検出ウイルス
加納岩小学校（峡東HC管内）	12/9	5	1 Inf.A(H3)
忍野中学校（富士・東部HC管内）	12/16	10	9 Inf.A(H3)
敷島南小学校（中北HC管内）	12/17	3	3 Inf.B（山形）
六郷中学校（峡南HC管内）	12/18	5	5 Inf.A(H3)

*：リアルタイムPCR法で遺伝子検出、組織培養法（HEp-2, RD-18S, Vero9013, MDCK）でウイルス分離 Inf.：インフルエンザウイルス

表 2-14 平成 26 年度 食中毒・集団下痢症のウイルス検査

月・日	保健所	検体数	検 体				検出ウイルス*	検出数
			糞便	吐物	食品	ふきとり		
4.4	富士・東部	3	3				-	0
5.1	中北	20	20				ノロウイルスG II	7
6.5	中北	5	5				ノロウイルスG II	4
6.18	中北(峡北支所)	33	15			18	-	0
6.28	峡東	7	7				-	0
7.8	峡南	2	2				-	0
7.8	中北	20	17		3		-	0
7.8	中北(峡北支所)	1	1				-	0
7.11	富士・東部	14	14				-	0
8.20	富士・東部	11	6			5	-	0
9.3	峡東	18	8			10	-	0
9.25	富士・東部	25	16			9	-	0
9.25	峡東	1	1				-	0
11.20	峡東	5	5				ノロウイルスG II	4
11.22	中北	13	13				ノロウイルスG II	5
12.4	富士・東部	1	1				-	0
12.5	峡東	24	16	3		5	ノロウイルスG II	5
12.6	中北	15	10			5	ノロウイルスG I ノロウイルスG II	2 3
12.10	峡東	4	4				ノロウイルスG II	4
12.11	峡南	4	4				ノロウイルスG II	4
12.11	富士・東部	1	1				ノロウイルスG II	1
12.11	中北	17	9		3	5	ノロウイルスG II	7
12.13	峡東	7	7				ノロウイルスG II	7
12.15	中北(峡北支所)	12	12				サボウイルス ノロウイルスG II	2 1
12.16	中北	10	10				ノロウイルスG II	4
12.22	富士・東部	1	1				ノロウイルスG II	1
12.23	中北(峡北支所)	16	11			5	ノロウイルスG II	9
12.30	中北	9	9				ノロウイルスG II	5
12.31	中北	17	17				ノロウイルスG II	6
1.6	峡東	4	4				ノロウイルスG II	3
1.14	峡南	7	7				ノロウイルスG II	4
1.15	中北	1	1				A型肝炎ウイルス(1A)	1
1.15	峡東	1	1				A型肝炎ウイルス(1A) サボウイルス	1 3
1.16	中北	18	13			5	ノロウイルスG I ノロウイルスG II	2 6
1.17	中北	51	15		22	14	ノロウイルスG II	12
1.17	峡南	3	3				ノロウイルスG II	3
1.17	中北(峡北支所)	10	10				ノロウイルスG II	7

表 2-14 平成 26 年度 食中毒・集団下痢症のウイルス検査 (続き)

月日	保健所	検体数	検 体				検出ウイルス*	検出数
			糞便	吐物	食品	ふきとり		
1.19	中北	1	1				-	0
1.20	峡東	1	1				-	0
1.20	中北(峡北支所)	14	9			5	ノロウイルスG II	2
1.21	富士・東部	11	11				-	0
1.24	峡東	11	6			5	-	0
1.29	中北	21	16			5	ノロウイルスG II	8
1.30	中北	1	1				ノロウイルスG II	1
1.30	中北	17	12			5	ノロウイルスG II	5
2.4	中北(峡北支所)	1	1				ノロウイルスG II	1
2.4	中北	11	6			5	ノロウイルスG II	3
2.4	中北(峡北支所)	2	2				-	0
1.16	中北	34	29			5	-	0
2.8	中北	9	4			5	ノロウイルスG II	2
2.10	富士・東部	16	7			9	ノロウイルスG I ノロウイルスG II	2 3
2.23	富士・東部	42	7		24	11	ノロウイルスG II	7
2.27	中北	1	1				ノロウイルスG II	1
2.27	峡南	2	2				ノロウイルスG II	2
2.24	中北	1	1				A型肝炎ウイルス(1A)	1
2.27	富士・東部	33	14		6	13	ノロウイルスG II	14
3.2	中北(峡北支所)	17	9			8	ノロウイルスG II	5
3.2	富士・東部	10	3			7	ノロウイルスG II	2
3.9	峡南	3	3				-	0
3.9	富士・東部	6	6				A群ロタウイルス	4
3.10	中北(峡北支所)	28	14		10	4	ノロウイルスG II	8
3.11	中北	1	1				ノロウイルスG II	1
3.12	中北	2	2				ノロウイルスG II	2
3.16	峡東	9	9				ノロウイルスG II	4
3.18	富士・東部	3	3				A群ロタウイルス	2
3.18	中北	11	6			5	ノロウイルスG II	4
3.19	中北	21	16			5	ノロウイルスG II	9
合 計		751	502	3	68	178		216
							ノロウイルスGI**	6
							ノロウイルスG II**	196
							A群ロタウイルス*	6
							サポウイルス*	5
							A型肝炎ウイルス(1A)*	3

*ノロウイルス:リアルタイムRT-PCR法, サポウイルス:PCR法・シーケンス, アデノウイルス:イムノクロマト法・PCR法 **重複感染を含む

表 3 平成 26 年度 環境汚染に係る苦情、事故に伴う行政検査

No	月.日	搬入者	種 別	摘 要	検体	項目
1	6. 24	峡東林務環境事務所	廃棄物	不法投棄	2	16
2	7. 2	大気水質保全課	土壌汚染	地下水汚染	3	15
3	7. 17	峡東林務環境事務所	廃棄物	不法投棄	1	2
4	10. 1	環境整備課	廃棄物	河川水汚染	4	64
5	10. 9	大気水質保全課	騒音	リニアモーターカー騒音	2	20
6	11. 21	大気水質保全課	騒音	リニアモーターカー騒音	4	24
7	2. 4	大気水質保全課	騒音	リニアモーターカー騒音	3	62
8	2. 5	大気水質保全課	騒音	リニアモーターカー騒音	3	60
9	2. 16	富士・東部林務環境事務所	水質汚濁	魚へい死	2	40
10	2. 25	大気水質保全課	騒音	リニアモーターカー騒音	3	42
11	2. 27	環境整備課	廃棄物	臭気測定	2	2
12	2. 27	環境整備課	廃棄物	河川水汚染	6	138
13	3. 25	環境整備課	廃棄物	不法投棄	8	248
					43	733



論文抄録および学会発表

論文抄録

1) 吉澤一家、山崎修平、宮崎淳一

生物利用型水質浄化システムの構築と応用に関する研究
山梨県総合理工学研究機構研究報告書, 9, 1-9(2014)

環境負荷が少なく、エネルギー消費量が少ない生態工学的方法が、水質改善方法として湖沼・河川に用いられている。本研究ではより多様な水域で応用可能にするための手法を確立するとともに、水生植物の供給から、再

利用にいたる一連のプロセスを確立することを目的として研究を進めている。最終年の 2013 年度は都市公園内の池において行った隔離水界実験の結果から以下の諸点が確認された。水生植物 + 二枚貝の野外実験区では、対照区に比べ常に低い濁度を保ち、水質改善効果が認められたが、野外実験池での二枚貝の生存率は 10 ~ 60%と幅があり、水生植物の共存による特別な効果は認められなかった。

学会発表

1) 吉澤一家ら

生物利用型水質浄化システムの構築と応用に関する研究

(平成26年度産学官交流事業研究成果発表会, 甲府市, 2014.9.5)

2) 長谷川裕弥

山梨県内河川水中の重金属の形態分析について

(日本陸水学会第79回大会, つくば市, 2014.9.10 ~ 13)

3) 柳本恵太、植松香星

2ステップMultiplex PCRを用いた食中毒原因菌11種の検出法の開発

(第35回日本食品微生物学会, 大阪府堺市, 2014.9.18 ~ 19)

4) 西潟剛、大沼正行

山梨県内におけるロタウイルス集団感染症事例の遺伝子解析

(地方衛生研究所全国協議会第29回関東甲信静支部ウイルス研究部会, 長野市, 2014.9.25 ~ 26)

5) 小田切幸次、佐野卓也(山梨大) 大石哲(神戸大)

内山高(富士山科学研) 小林浩

複数のXバンドMPレーダを用いた富士山周辺域の降水量推定

(水文・水資源学会2014年度総会・研究発表会, 宮崎県宮崎市, 2014.9.25 ~ 28)

6) 大橋泰浩

山梨県における地衣類の分布

(平成26年度全国環境研協議会関東甲信静支部大気専門部会, 千葉県, 2014.10.10)

- 7) 長谷川裕弥
水生植物による水質浄化について - 草体によるSSのトラップ量の調査 -
(平成26年度全国環境研協議会関東甲信静支部水質専門部会, 静岡市, 2014.10.31)
- 8) 尾形正岐、小林浩
河口湖の推移変動と河口湖南東部の地下水位変動
(2014年日本地下水学会秋季講演会, 熊本県熊本市, 2014.11.6~8)
- 9) 吉澤一家、五味愛由伽、宮崎淳一
淡水二枚貝と沈水植物を用いた湖沼の濁度抑制効果
(日本水処理生物学会第51回大会, 甲府市, 2014.11.12~14)
- 10) 大木翔平、竹内彩、小林浩
動物用医薬品一斉試験法の検討
(第51回全国衛生化学技術協議会, 大分県別府市, 2014.11.20~21)
- 11) 竹内彩、三井智昭、小泉美樹、山本敬男
ブドウ果汁中の妨害成分による保存料分析に関する一考察
(第51回全国衛生化学技術協議会, 大分県別府市, 2014.11.20~21)
- 12) 小田切幸次、大木翔平、望月映希、小林浩
水道原水に係る新規追加農薬類の分析法の検討
(第51回全国衛生化学技術協議会, 大分県別府市, 2014.11.20~21)
- 13) 小泉美樹、小林浩、戸沢一宏、柴田尚
山梨県産野生きのこ類中のCs137の起源とその割合
(第108回食品衛生学会学術講演会, 石川県金沢市, 2014.12.4~5)
- 14) 吉澤一家ら
淡水二枚貝と沈水植物を用いた水質浄化方法の検討
(平成26年度環境保全・公害防止研究発表会, 神戸市, 2014.12.10~11)
- 15) 竹内彩、三井智昭、小泉美樹、山本敬男
保存料分析におけるブドウ果汁中の妨害成分(アントラニル酸メチル)について
(山梨県公衆衛生発表会, 中央市玉穂図書館, 2015.2.5)
- 16) 大沼正行、西方剛
山梨県における風しん抗体価の調査と疫学的考察
(平成26年度山梨県公衆衛生発表会, 中央市, 2015.2.5)
- 17) 柳本恵太、植松香星
ローストビーフを原因とする黄色ブドウ球菌による食中毒事例
(地方衛生研究所全国協議会第27回関東甲信静支部細菌研究部会, 川崎市, 2015.2.9~10)
- 18) 長谷川裕弥、吉澤一家
山中湖における水生植物モニタリングについて
(第30回全国環境研究所交流シンポジウム, つくば市, 2015.2.12~13)
- 19) 大木翔平、竹内彩、小林浩
畜産物試料における動物用医薬品試験妥当性評価及び不適合物質に関する一考察
(関東甲信静理化学部会, 東京都, 2015.2.20)
- 20) 堀内雅人
山梨県におけるコモチカワツボの生息状況
(第49回日本水環境学会年会, 金沢市, 2015.3.16~18)
- 21) 長谷川裕弥、吉澤一家
GPSを搭載した漂流ブイによる西湖の水深別湖内流観測
(第49回日本水環境学会年会, 金沢市, 2015.3.16~18)